

編集後記

■湯本の後任として本誌の編集・発行人となりました恵谷です。一読者から製作する立場に代わり緊張しておりますが、皆さんのご意見なども参考にさせていただきながら、ご好評をいただいております本誌のクオリティーを出来る限り落とさないよう、精一杯努力していきたいと思っています。

今号では、福井総裁と齊藤東証新社長との対談を実現しましたが、お二人のわが国金融業の国際競争力強化に向けた熱い思いがひしひしと伝わる対談となっています。また、小生が4月まで勤務した神戸での還暦プロゴルファー古市氏とのインタビューや、長野県下條村のコスト削減への取り組みは、図らずも、わが国において失われつつある「コミュニティの力」の重要性を、改めて教えてくれました。(恵谷)

■小泉八雲の愛した松江は、青空にトビが鳴き、緑溢れる城山は静寂と森の香りで満たされ、観る者の五感を刺激します。そんな街並みに今も残る八雲旧居は、丹精込めて手入れされた庭や、床の間に飾られた季節の生け花など、まるで八雲がまだここに暮らしているかのように、当時の姿が保たれています。私財を投じ、計り知れないほどの手間をかけ、旧居を守り続けていらっしゃる根岸道子さんの心根の美しさに感動せずにはおれません。そして、これこそが、八雲が愛してやまないものの真髄なのだと思います。(AU)

※本誌は、全国の日本銀行本支店および貨幣博物館、旧小樽支店金融資料館等でお配りしています。個人の方の定期購読、郵送はお取り扱いしておりませんのでご了承ください。なお、既刊号全文をPDFファイル形式で日本銀行ホームページ上に掲載していますのでご利用ください。

(<http://www.boj.or.jp/type/pub/nichigin.htm>)

※本誌に掲載している内容は、必ずしも日本銀行の見解を反映しているものではありません。日本銀行の政策・業務運営に関する公式見解については、日本銀行ホームページ (<http://www.boj.or.jp/>) をご覧ください。

にちぎん 2007年 秋号
編集・発行人 恵谷英雄
発行 日本銀行情報サービス局
〒103-8660
東京都中央区日本橋本石町2-1-1
☎03-3277-2405

デザイン 株式会社市川事務所
印刷 数島印刷株式会社
©日本銀行情報サービス局 禁無断転載

「日銀ウォーキング」 ミュージアムKINCO 「日本銀行×東京藝術大学 地下金庫展」の開催

▼日本銀行では、名橋「日本橋」保存

会および東京藝大との共催による催事を実施します。今回の催事では、日本銀行本店旧館の地下金庫の中を自由に歩きながら、東京藝大関係者の手による美術作品や音響作品等をご鑑賞いただく予定です。また、期間中、初日に邦楽と洋楽の演奏会を行うほか、二日間の市民講座を開催し、日本銀行の業務や金融経済に関するテーマについて日本銀行職員が分かりやすく解説したり、外部からお招きした講師の方に日本銀行の建物や地元日本橋の歴史について講演していただきます。約二週間の開催期間を通じて、多くの方々にご

来場いただき、地元日本橋地区の一段の活性化にも貢献できればと考えています。

地下金庫を舞台に、美術と音楽が織り成す異空間を体験する催事に足を運んでみませんか？

場所 日本銀行本店旧館

期間 十一月三日(土・祝)～十六日(金)

(除く十日(土))

概要

(1)演奏会 東京藝大関係者による演奏会(催事初日のみ)

(2)美術展 地下金庫に現代美術作品を展示するほか、音響作品をご鑑賞いただきます。

(3)市民講座 十一月四日(日)、十一日(日)にそれぞれ三つの講座を実施します。

(4)旧館見学 期間中の平日は、通常



地下金庫内に美術作品を展示します

の旧館見学のほか地下金庫での美術展もご観覧いただけます。

来場ご希望の方は、事前予約が必ずです。申込方法など詳細は日本銀行ホームページをご覧ください(申込

締切 十月十九日)。

<http://www.boj.or.jp/>

お問い合わせ03-3333-2771・2568

「日本銀行と金融政策」パンフレットを作成

▼日本銀行では、日本銀行の金融政策について一般の方々によりご理解いただくための解説パンフレット「日本銀行と金融政策」を作成しました。

このパンフレットは、日本銀行が現在行っている金融政策運営の基本的な仕組みについて分かりやすく解説したものです。日本銀行ホームページからダウンロード可能ですので、高校など学校の副教材としてもご利用ください。

<http://www.boj.or.jp/>

お問い合わせ03-3333-2771・2568